

# 第1回指定管理者候補者選定委員会 議事録（概要）

日時：平成28年8月29日（月）18:00～

場所：市役所8階第1会議室

## 1 開会

（行政改革課長）

- ・ これより、「平成28年度第1回函館市指定管理者候補者選定委員会」を開会する。
- ・ 本日は、委員7名全員が出席しており、会議が成立することを報告する。
- ・ 会議は、非公開で行う。ただし、出席した委員名は、選定結果とともに、後日公表することとなる。また、議事録についても、発言した委員名が特定されない形で概要版を公開するので、あらかじめご承知おき願いたい。
- ・ 会議の進行は、委員長にお願いする。

## 2 選定施設・選定方法等の確認

（委員長）

- ・ それでは、本日の選定施設や選定方法等について、事務局に説明を求めたい。

（行政改革課長）

- ・ 本日の選定対象施設は、「函館コミュニティプラザ」の公募1施設である。
- ・ 公募施設の選定については、各委員の採点結果を集計し、その平均が最も高得点となった団体について、委員合意により決定する「総合点数方式」である。
- ・ 本施設は、新規施設のため、応募のあった4団体へのヒアリングを実施する。  
また、必要に応じて所管部局をヒアリングすることも可能であるので、御審議のほどよろしく願いたい。
- ・ 説明は以上である。

（委員長）

- ・ 事務局の説明に対し、何か質問等はあるか。

（選定委員）

- ・ なし

（委員長）

- ・ では、特にないようなので、審査および候補者の決定に移ることとする。

## 3 審査①～候補者団体（函館山ロープウェイ株式会社）へのヒアリング

（委員長）

- ・ それではまず、「函館山ロープウェイ株式会社」（以下「ロープウェイ」という。）へのヒアリングを行う。
- ・ （ロープウェイ 入室）

- ・ (ロープウェイから応募内容についての説明後, 質疑応答)

【質疑応答の概要】

◆選定委員	◆ 建物の1～3階までは商業施設となっているが, それらの施設と何か連携は考えているのか。
◇ロープウェイ	◇ まずは, 施設全体の広報の面で協力していき, 将来的にはイベント開催等でも協力していきたい。
◆選定委員	◆ 委託事業は, 通年既定事業, プロジェクト事業, イベントの3本柱となっているが, その関連性と狙いについて聞きたい。
◇ロープウェイ	◇ 3事業については関連性を持たせながら年間を通じて実施していきたいと考えている。毎月恒常的に実施する通年既定事業を基本とし, その中で若者に自主性を持ってもらい, そこからプロジェクト事業に発展していくことを考えている。 イベントについては, 「(仮称) Gスクフェスティバル」を考えており, こちらも通年既定事業を通じて協力してもらえる若者を募り, 一緒に実施したいと考えている。
◆選定委員	◆ プロジェクト事業は, 若者が自主性を持つことが求められており, ハードルが高いため, その前段階として通年既定事業があるという見方で良いか。
◇ロープウェイ	◇ そうです。通年既定事業は「FMいるか」での番組制作を起点として進め, その番組の企画内容等を考えていくなかで, イベント性のある形に発展していくような形を考えている。
◆選定委員	◆ プロジェクト事業の内容は, 変わる可能性もあるのか。
◇ロープウェイ	◇ 事業計画書では, 実際にできるものを例として提示しているが, 実際の若者達のトレンドを踏まえたうえで, こういったものをやってみたい, こちらの方が面白そうだといった意見を上手く拾い上げて, 事業化へのサポートを行っていきたいと考えている。
◆選定委員	◆ プロジェクト事業等を成功させるためには, 通年既定事業が上手くいかなければならない。通年既定事業は, 内容が幅広くなっているが, 人的支援の面では大丈夫なのか。
◇ロープウェイ	◇ 「FMいるか」は開局24年で, おそらく番組を聞いていた市民は2～3万人を超えると自負している。その中で様々なネットワークを持っており, 各種団体や市民からも協力を得られるものと考えている。

<p>◆選定委員</p> <p>◇ロープウェイ</p>	<p>◆ 事業計画書の中に、市民サービス向上のための取り組みとして、WEBや意見箱を設置して問題点を認識して解決を図ると記載されているが、WEBや意見箱で集約した情報は、具体的にどのように市民サービス向上に反映していくのか。</p> <p>◇ まずは、広く意見を募集するため、例えばWEBでは色々な書き込みをしやすい形にして意見を拾っていく作業を行い、その中で利用者と情報交換することを考えている。</p> <p>その後、例えば外部委員会的なものも組織したいと考えている。実際に「FMいるか」では番組審議委員会を設置しており、そこから色々な情報を得ているという実績がある。</p> <p>◇ 収集した意見等を、まずは本施設に配置した社員の中で検討し、最終的には当社の役員等も含めて情報を共有し、そうした中で、施設運営に意見を反映させるシステムを構築していきたいと考えている。</p> <p>クレーム等も同様に、全て社内では情報を共有し、現場だけで対応するのではなく、会社として取り組むことを考えている。</p> <p>◇ もう一つは、番組を通じて戴いた意見を公表していくことも行っている。函館圏域では一番聞かれている放送局であるということ踏まえ、外部委員会での検討内容の公表については、放送やWEB等と連携させ、広く知っていただくことを考えている。</p>
<p>◆選定委員</p> <p>◇ロープウェイ</p>	<p>◆ 対象者を若者としているが、幅広い年齢層へのつながりについて、利用者数にも関わってくるので、どう考えているか聞きたい。</p> <p>◇ 基本的にはメインターゲットは、高校生や大学生と考えているが、若い主婦や親子連れ等についても考えている。メインターゲット以外の人に利用してもらうためには、最初はまず認知してもらう必要がある。当社は広報分野でメリットを持っており、事業内容や施設の性格といったものを広報し、興味を持ってもらうことが、まず大事であると考えている。</p> <p>◇ その他に、若者が自主性を持ちながら色々な事業を進めて行く中で、子どもやお年寄等にどうしたら利用してもらえるか、番組の企画の中で取り上げていく方法もある。</p> <p>◇ また、例えば高校の文化部の発表会の場を提供することで、親や祖父母など幅広い層にもアピールしていけると考えている。</p> <p>◇ ラジオというメディアを前面に出していくことを考えているが、実際、当社の放送を聴いているのは、30～40代の主婦が多い。以前、番組でコンビニエンスストアとおにぎりの商品開発の企画を行った際に、若い人たちが番組を使って上手く広報してくれたが、実際その商品を買ったのは若い人ばかりでなく、主婦やサラリーマンも多かった。そういったところで繋がっていく。</p> <p>◇ 若い人たちが色々企画をしていく中でも、函館という街を踏まえたうえで企画を考えていけば、自ずと中高年の人に対して何らかのアピールができるイベントに繋がっていくのではない</p>

	<p>かと考えている。</p> <p>函館という地域に根差した企画を進めていくことで、実際にプラザに足を運ぶ人の年齢層は、もう少し幅広く考えることができるのではないかなと思う。</p>
--	--

- ・ (ロープウェイ 退室)

#### 4 審査②～候補者団体（Gスクエア）へのヒアリング

(委員長)

- ・ 次に、「Gスクエア」へのヒアリングを行う。
- ・ (Gスクエア 入室)
- ・ (Gスクエアから応募内容についての説明後、質疑応答)

##### 【質疑応答の概要】

◆選定委員	<p>◆ 私たちの決意の中に、「若者の起業家精神を育て夢を実現させる支援を通じて地域課題解決を目指す」という文章があり、若者の主体性や社会性を高めていくことは、大事な施設目的だと思うが、なぜ起業家精神をキーワードとしたのか。</p> <p>また、実施事業にある地域デザインカレッジで、社会事業家の視点と手法を学ぶとあるが、社会事業家の視点を学んで若者に主体的になってもらうことは、ハードルが高いと思う。そこで、プロジェクト事業と地域デザインカレッジの関係性について聞きたい。</p>
◇Gスクエア	<p>◇ まず、起業家精神について、何かやりたいがどうすればいいかわからない若者が結構いて、青年センターにもそのような若者がたくさん来る。そういった人達の起業家精神を高め、ビルに入ったテナントとつなげ、商売の面白さをプログラムを通じて展開していきたいと考えている。</p> <p>若い人は何かしらの野心を持っているので、そのような野心を掻き立てられるようなプログラムを提供していきたいと考えている。</p> <p>地域デザインカレッジについては、今の函館には、地域の課題を真摯に受け止め、世代を問わず様々なチャレンジを受け入れる体制づくりが必要だと考えている。</p> <p>人口が減少していくなか、青年センターやまちづくりセンターに来ている人達、Gスクエアに来るであろう若者達の力を結集して地域の課題を解決するために、色々取り組んでいきたいと考えている。</p>
◆選定委員	<p>◆ 事業計画書の中に、まちづくりセンターや青年センターのノウハウについての記載があるが、どのように連携して、どう活かしていくのか伺いたい。</p>

<p>◇Gスクエア</p>	<p>◇ まちづくりセンターと青年センターは、研修や貸館など、事業をやっていくうえで、現在も色々連携している。</p> <p>まちづくりセンターは、地域の課題を解決するような団体が利用している施設で、市民活動のネットワークを形成している。一方、青年センターはサークル活動などを行う団体が利用しており、若者のネットワークを形成している。このように利用している層が両施設では若干異なっている。</p> <p>コミュニティプラザで、色々な世代、多種多様な業種の人や団体が混ざりあうことで、若い人達の知識や価値観、社会性が養われ、また、大人も若い人達の考え方を掴み取れるようになる。そういったことにより、施設の設置目的達成のための様々な事業が展開できると考えている。</p> <p>また、プログラム事業を実施していく中で、課題にぶつかった時に、それを解決できる可能性がある人達を繋げるネットワークは、課題解決に大いに役立つと考えている。</p>
<p>◆選定委員</p>	<p>◆ そのノウハウが、実際にどのような場で、センター運営に関係してくるかが分かり難い。管理監督体制図の中で、実際にどのようにして、そのノウハウが下においていくのか、どのような手続きを経て反映されていくのかが知りたい。</p>
<p>◇Gスクエア</p>	<p>◇ 私が責任者として常駐したいと考えている。これまで青年センターの管理も行ってきたので、施設の性格は十分理解している。</p> <p>各事業部で何かをやらうとしたときには、この図の中の理事会（青年センター、まちづくりセンターの管理者もいる）に相談することになるので、そういった意味で連携することになる。</p>
<p>◆選定委員</p>	<p>◆ 今回グループで参加をしているが、事案が発生した場合、どのように情報共有をし、進めていくのか。</p>
<p>◇Gスクエア</p>	<p>◇ 普段からメーリングリストやSNSを活用して情報共有をしたいと考えている。</p>
<p>◆選定委員</p>	<p>◆ 三者が顔合わせて、何かを進めて行く機会はどうくらいあるのか。</p>
<p>◇Gスクエア</p>	<p>◇ 事業を実施していく中で、定期的に行いたいと考えている。</p>
<p>◆選定委員</p>	<p>◆ 三者のそれぞれの役割分担はどうなっているのか。</p>
<p>◇Gスクエア</p>	<p>◇ 乃村工藝社は東京を拠点に色々事業を行っており、今東京でもこのような施設が増えてきており、その情報やノウハウを函館にフィードバックする役割を担う。実際の事業は函館で行うので、企画の部分で、東京のノウハウが必要な場合は来てもらい、事業展開につなげていくことで考えている。</p>

◆選定委員	◆ 青年センターとの住み分けは、どう考えているのか。
◇Gスクエア	◇ 青年センターは、サークル活動をする場所で、このコミュニティプラザとは役割が違うと考えている。 コミュニティプラザでは、若い人達がこのような活動をやりたい、でもそれはサークルとは違うから、一緒にプログラムやメニュー作りなどの活動を通じて、中心市街地の活性化に繋げていくなど、若い人達のチャレンジを受け入れながら、プログラムを展開していきたいと思っている。 逆に、青年センターで活動している若い人達をプロジェクトに誘って、中心市街地活性化の方にも誘導し、町への愛着を持ってもらうように働きかけたいと思っている。

- ・ (Gスクエア 退室)

## 5 審査③～候補者団体（公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団）へのヒアリング

(委員長)

- ・ 次に、「公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団」（以下「振興財団」という。）へのヒアリングを行う。
- ・ (振興財団 入室)
- ・ (振興財団から応募内容についての説明後、質疑応答)

### 【質疑応答の概要】

◆選定委員	◆ 人員配置に関して、館長1名、施設管理担当職員3名、受付担当臨時職員3名の計7名全員が契約社員という形になっている。 施設管理担当職員の3名は、事業運営にあたって重要なポストだと思うが、どのような人材を配置するのか。
◇振興財団	◇ この契約社員は、当財団の普通契約職員という職種になる。1年更新の契約職員だが正職員と同等の仕事をしており、経験を積んだ職員も多いことから、そのような者を配置する予定で考えている。
◆選定委員	◆ 収支計算書の中で、備品費が毎年30万円計上されているが、順次毎年少しずつ揃えていくとういことか。修繕費も同じように計上されている。一般的に修繕費は、初年度はあんまりかからず、後年次になるほど必要になってくると思う。毎年同じ金額が計上している理由について伺いたい。
◇振興財団	◇ 私どもが管理している同規模施設の平均的な金額を計上している。 まず、備品に関しては、初年度に防災関係の備品を重点的に揃

	<p>えようと計画をしており、例えば担架、車椅子、耐火金庫等の購入を予定し 30 万円を計上している。H30 年度については、車椅子や階段避難器具のイーバックチェア (215 千円) 等を購入する予定である。H31 年度には、会議用のマイクシステム (240~250 千円) を購入することで計上している。H32 年度以降については、これまでの経験上、音響関係は 3~4 年すると故障してくることが多かったので、そのような備品を更新するという考えている。</p> <p>最初の 3 年目までは新品の備品を購入し、4 年目以降は既存の備品の壊れたものを補充していくという考え方である。</p> <p>修繕については、平均的な金額を計上しており、新しい施設でもかからなかったことが、今までの経験上なかったため、ある程度、初年度の修繕も想定し計上している。</p>
◆選定委員	◆ 「何でもプロジェクト」について、職員の役割は、企画の募集から審査、選定後の企画進行にあたってのサポートとなっているが、最初の提案には一切タッチしないで企画を募集するということが良いのか。
◇振興財団	◇ 基本は自主性に任せるが、白紙の状態では実際には難しいと思うので、サジェスチョンといったことは、私どもも最初から携わっていきたいと考えている。
◆選定委員	◆ サジェスチョンできる人材は確保できるか。
◇振興財団	◇ 人材については、有識者の方に相談したり、学校の先生とも連携を持っている。
◆選定委員	◆ 今の若者の特性を考えると、かなりハードル高いと思うが、その辺を下げると考え方はあるのか。
◇振興財団	<p>◇ 何もない状態で、何かやって下さいと言ってもできないことは、私どもも十分危惧している。</p> <p>例えば、アプリの開発といったものに関しては、学校の大学のゼミの先生のところに行って相談し、そこで学校の生徒を紹介してもらい、さらにそこから高校生等、上手く連携を取りながら若者が一体となれるようにと、特に初年度は、私どもで道筋はつけていくべきと考えている。</p>

- ・ (振興財団 退室)

## 6 審査④~候補者団体 (有限会社アイリス) へのヒアリング

(委員長)

- ・ 次に、「有限会社アイリス」(以下「アイリス」という。)へのヒアリングを行う。

- ・ (アイリス 入室)
- ・ (アイリスから応募内容についての説明後, 質疑応答)

【質疑応答の概要】

◆選定委員	◆ 緊急対応に関して, 緊急連絡先のみが示されているが, 昨今震災災害などの色々な災害が起こっている中, 非常に重要な部分だと思うが, 緊急時には組織的にどう対応するのか伺いたい。
◇アイリス	◇ 大災害というところまで正直考えていなかった。何かあった時に施設のスタッフだけでは足りないときの応援体制しか想定していなかった。
◆選定委員	◆ では, 災害を想定したマニュアル作りはこれからか。
◇アイリス	◇ これから作成する。地震が起きて建物に閉じ込められてしまった時にどう対応するのかというレベルまでを想定するということですね。早急に検討する。
◆選定委員	◆ 従業員について, 非正規の割合が多いが, 事業の展開上問題にならないのか。
◇アイリス	◇ ある程度, やりながら正規職員も増やしていければと考えている。
◆選定委員	◆ 今後, 増やすつもりでいるのか。
◇アイリス	◇ 基本的には社員として雇用したいと考えている。
◆選定委員	◆ 事業に対する参加料を徴収するような記述があるが, 金額的にはどうなのか。
◇アイリス	◇ 全国的に行われているワークショップを函館で実施した場合の金額というものを想定した。全国レベルからすると相当安い金額となっている。 これで利益を出そうというわけではなく, 若い人に多く参加してもらいたいと考えているので, 金額の見直しについては, 今後検討したい。 ◇ 提案内容が, 映画に特化していると感じると思うが, それが我々の特徴でもある。ただし, 施設自体を映画資料館のようなものにするということは, 全く考えていない。 基本的に市民がその場に来て, 絵画展や陶芸展等を1~2時間コーヒーを飲みながら見て過ごす施設であったり, 市民が運営するダンスサークル発表会等に使用されることを通常として考えているが, その他に我々の特色として映画というものを一つの顔として, 施設の特色として出していきたいと考えている。



- ・ (アイリス 退室)

## 7 候補者の決定

(委員長)

- ・ 応募のあった4団体へのヒアリングが終了したが、所管部局にヒアリングする事項はあるか。

(選定委員)

- ・ なし

(委員長)

- ・ それでは、採点を実施する。
- ・ (各委員「採点」→事務局集計・確認→各委員へ採点表の配付)

(委員長)

- ・ それでは、事務局で集計した採点表をご確認いただきたい。
- ・ 応募のあった4団体のうち、委員の平均点により総合評価した結果、「Gスクエア」が454点で最も高得点となったので、「Gスクエア」を「函館コミュニティプラザ」の指定管理者候補者として選定することに異議はないか。

(選定委員)

- ・ 異議なし

(委員長)

- ・ それでは、異議がないので、「Gスクエア」を指定管理者候補者として選定することとする。
- ・ 以上で本日の審査を終了する。

## 8 閉会

(行政改革課長)

- ・ 選定結果および会議録概要については、後日、市のホームページにおいて公表する。
- ・ 次回の選定委員会は、10月中旬の開催を予定している。
- ・ 以上で、本日の選定委員会を閉会する。